

様式1(主な取組)

活動指標名	しまくとぅば普及の中核的機能を担う普及センターの設置・運営				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	—	—	設置・運営	運営	運営	—	100.0%	91,014	順調	平成29年度に設置した「しまくとぅば普及センター」の運営を沖縄県文化協会へ委託し、各地域における人材の養成や活用のコーディネートその他、地域の会話集の作成、しまくとぅば検定の実施、県民からの相談対応等の業務を行った。	
活動指標名					R元年度						
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	「しまくとぅば普及センター」の運営により、講師養成講座及びしまくとぅば検定を実施したほか、22地域で人材養成講座を開催、出前講座も16件行うなどしまくとぅばの普及に向けて県民がしまくとぅばを学べる環境整備が促進された。
活動指標名					R元年度						
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和元年度の取組改善案						反映状況					
<ul style="list-style-type: none"> 県内各地域の現状をより詳細に把握し、各地域にあったサポートが行えるよう関係団体等と連携を図る。 しまくとぅば講師養成講座及びしまくとぅば検定の実施回数を増やすとともに、しまくとぅば講師養成講座については、これまで開催していなかった沖縄本島中北部地域で開催する。 						<ul style="list-style-type: none"> 県内各地域の市町村文化協会などしまくとぅば普及団体と連携し、地域のしまくとぅばの会話集及び絵本・紙芝居などの普及ツール作成支援など、地域の普及団体の取組みに応じた支援を行うことができた。 しまくとぅば講師養成講座については、沖縄本島中部で中級講座を実施するとともに、沖縄本島北部で初級講座を開催した。しまくとぅば検定についても、9級に加え、8級及び7級を実施した。 					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・全県的な取組をさらに強化するためには、コーディネート業務が重要となるが、「しまくとうば普及センター」人員は採用から日が浅い者もいること、自身になじみのないことばの地域における活動においては、地域の普及団体等との信頼関係構築に時間を要する場合もある。

・しまくとうば普及の全県的な取組につながるよう、講師養成講座及びしまくとうば検定の実施回数及び実施場所を拡充することとしているが、これらの実施に期間を要している。

○外部環境の変化

・「しまくとうば県民意識調査」によると、「しまくとうば」を話せる人の割合は昨年度より上昇した。また、しまくとうばに親しみを感じている人やしまくとうばは必要であると思う人の割合、しまくとうばへの理解度は高い割合を示している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・全県的な取組を強化するため、市町村文化協会など、他のしまくとうば普及関係団体と連携していく必要がある。

・しまくとうば講師養成講座及びしまくとうば検定について、実施回数の増、未開催地域での開催を検討するほか、実施体制も検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとうば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。

様式1(主な取組)

活動指標名	人材養成講座の実施				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	10地域	9地域	24地域	19地域	22地域	20地域	100.0%	91,014	順調	「しまくとぅば普及センター」において、中南部地域や北部地域を中心に22地域で人材養成講座を開催したほか、学校や公民館などにおいて出前講座を16件開催した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										人材養成講座は、目標値の20地域を上回る22地域で、出前講座も目標値の10件を上回る16件での開催となった。人材養成講座、出前講座に加え、講師養成講座、しまくとぅば検定を実施することにより、次世代へしまくとぅばを普及継承していく人材の育成を図ることができた。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 県内各地域の現状をより詳細に把握し、各地域にあったサポートが行えるよう関係団体等と連携を図る。 						<ul style="list-style-type: none"> 県内各地域をこまめに訪問し、地元で普及活動を行う団体や古老に、しまくとぅば普及活動に関し聞き取りを行い、ニーズに即した普及活動支援を行った。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

- ・全県的な取組をさらに強化するためには、コーディネート業務が重要となるが、「しまくとうば普及センター」人員は採用から日が浅い者もいること、自身になじみのないことばの地域における活動においては、地域の普及団体等との信頼関係構築に時間を要する場合もある。
- ・しまくとうば普及の全県的な取組につながるよう、講師養成講座及びしまくとうば検定の実施回数及び実施場所を拡充することとしているが、これらの実施に期間を要している。

○外部環境の変化

- ・「しまくとうば県民意識調査」によると、「しまくとうば」を話せる人の割合は昨年度より上昇した。また、しまくとうばに親しみを感じている人やしまくとうばは必要であると思う人の割合、しまくとうばへの理解度は高い割合を示している。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

- ・全県的な取組を強化するため、市町村文化協会など、他のしまくとうば普及関係団体と連携していく必要がある。
- ・しまくとうば講師養成講座及びしまくとうば検定について、実施回数の増、未開催地域での開催を検討するほか、実施体制も検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・公民館を含む市町村、市町村文化協会などの文化関係団体等と連携を図り、各実施主体も主体的にしまくとうば普及活動に取り組んでいただくよう、働きかけを強化する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	① しまくとぅばの保存・普及・継承
			施策の小項目名	—
主な取組	普及に取り組む団体等への支援			
対応する主な課題	①沖縄各地域で世代を越えて受け継がれてきた言葉であり、沖縄文化の基層となっている「しまくとぅば」を次世代へ継承することは極めて重要であるが、その語り手が徐々に少なくなっており、しまくとぅばが消滅の危機にあるため、保存・普及・継承に一層取り組む必要がある。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
各地域でしまくとぅばの普及に取り組む団体や民間企業等へ支援を行う。		補助事業 件数10件程度				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】				
		普及団体や民間企業等が実施する普及活動に対する補助				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：12件の事業を採択した。 OR2年度：10団体へ補助予定
							一括交付金(ソフト)	直接実施	
予算事業名							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	補助事業件数				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要	
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B				
	—	—	12件	11件	12件	10件	100.0%	95,627	順調	しまくとうば普及継承の取組に対する補助事業の公募を行ったところ、15件の応募があり、審査の結果、12件の採択を行った。採択された団体において、しまくとうばの講座や劇、コンテスト等多彩な事業が展開された。	
活動指標名					R元年度						
実績値										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果	採択された12件の事業は、講座系、公演系、大会(コンテスト)系など、多岐にわたり、いずれの事業も大人から子どもまで幅広い年齢層が楽しめる内容で実施されたことから、多くの県民がしまくとうばに親しむことができ、普及継承に大きく寄与した。
活動指標名					R元年度						
実績値											
活動指標名					R元年度						
実績値											
(2)これまでの改善案の反映状況											
令和元年度の取組改善案						反映状況					
<p>・しまくとうばの普及に取り組む団体や民間企業等への支援を通して、教室や公演、コンテストなど多くの県民がしまくとうばに親しむことができる機会を創出する。</p>						<p>・採択された12件の事業は、講座系、公演系、大会(コンテスト)系など、多岐にわたり、いずれの事業も大人から子どもまで幅広い年齢層が楽しめる内容で実施されたことから、多くの県民がしまくとうばに親しむことができ、普及継承に大きく寄与した。</p>					



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・普及団体がこれまで補助事業に関わったことのない団体等が多く、事務作業そのものについても不慣れな団体がほとんどであることから、補助事業の制度そのものの理解が難しく、事業の執行に多大な支援を要する。

○外部環境の変化

・県内団体で応募する団体や地域に偏りがある。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・各団体が補助事業の制度を十分理解し、円滑に執行できるようサポートする必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

- ・「しまくとぅば普及継承事業」全体の成果指標となっている「しまくとぅばを挨拶程度以上、話す人の割合」の向上に繋がるような事業、例えば若い世代に向けた事業等を採択事業とする。
- ・補助事業者に対して、事務処理に関する手引き等を周知し、計画に沿った事業実施及び予算執行等を行うよう支援する。

様式1(主な取組)

活動指標名	動画コンテンツの制作				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	6話	25話	25話	5話	100.0%	21,721	順調	<p>無形遺産のひとつである伝承話の記録を保存・継承・活用するため、平成28年度に選定した優良民話80話の中から25話の動画コンテンツを制作した。また、平成30年度に制作した動画コンテンツの上映会を行うとともに、デジタル民話のサイトを構築し、動画コンテンツとデータベースをWEBで配信した。</p> <p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>令和元年度は、大学等外部専門家の監修の下、デジタル動画コンテンツを25話制作し、伝承話の保存・継承を図った。また、平成30年度に制作した動画コンテンツについて、離島での移動展及び県立博物館内で上映会を実施し、のべ514人が参加し、一般県民が伝承話に触れる機会を創出した。さらに、動画コンテンツと民話データベースのWEB配信を始めたことにより、地域を越えた新しい伝承話活用の場を構築した。</p>
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<p>・民話及び「しまくとぅば」への理解・関心を高めるため、制作した動画について、webや上映会等において効果的な発信を行う。</p>						<p>・民話及び「しまくとぅば」への理解・関心を高めるため、制作した動画についてWeb配信を開始するとともに館内外での上映会を行った。</p>				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・制作した動画やWEBサイトについて、多くの人に鑑賞してもらうため広報を行う必要がある。

○外部環境の変化

・本島及び離島地域でも「しまくとぅば」を話す人が減少し、生活の中での次世代への継承が難しくなっているため、「しまくとぅば」の保存・活用に継続的に取組む必要性が高まっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・「しまくとぅば」への理解・関心を高めるために、上映会の機会を増やして動画コンテンツのWeb配信や活用法について周知を拡げる必要がある。
・次世代への継承のため、特に子供達に楽しく鑑賞してもらう機会を増やす必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・館内外での上映会の機会を増やし、動画コンテンツのWeb配信や活用法について効果的な発信を行う。
・子供達が鑑賞する機会を増やすため、チラシ等を配布し学校への周知活動を行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-ア	沖縄の文化の源流を確認できる環境づくり	施策	② 伝統行事の伝承・復元
			施策の小項目名	—
主な取組	沖縄食文化の保存・普及・継承			
対応する主な課題	②各地域、各島々に伝わる祭事等の伝統行事をはじめ、琉球料理等の伝統的な生活文化が徐々に失われつつあり、沖縄文化が体感できる環境は徐々に薄れてきている。特に、離島や過疎地域においては、人口の減少に伴い祭りの簡素化や後継者不足などが課題となっている。			

1 取組の概要 (Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元	R2	R3
文化や歴史に培われてきた沖縄特有の食文化を保存・継承するとともに、伝統的な食文化を活用して沖縄文化の魅力を県内外に発信するための調査・検討を行い、食文化のあるべき姿、進むべき方向性を明確にする。		人材養成 毎年度5名				
実施主体	県	→				
担当部課【連絡先】	文化観光スポーツ部文化振興課	【098-866-2768】				
		伝統食文化の普及推進計画に基づく取組の実施				

2 取組の状況 (Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位：千円)

予算事業名 沖縄食文化保存・普及・継承事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度： 担い手育成講座の実施と担い手の活用を行うとともに、伝統的な食文化のデータベース化のための検討、情報収集を行った。 OR2年度： 琉球料理传承人の活用を行うとともに、伝統的な食文化のDB化のための検討、情報収集を行う。また、日本遺産を活用した食文化の普及に取り組
県単等	委託	—	9,142	8,477	17,316	19,082	24,637	県単等	

予算事業名 沖縄食文化の魅力味わい事業							R2年度		令和元年度活動内容と令和2年度活動計画
主な財源	実施方法	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算額	R元年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OR元年度：
県単等	委託	8,449	—	—	—	—	—		OR2年度：

様式1(主な取組)

活動指標名	普及推進計画に基づく人材養成(単位:人)				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	22	24	23	5	100.0%	19,082	順調	「沖縄の伝統的な食文化の普及推進計画」に基づき、沖縄の伝統的な食文化の普及啓発活動を行う担い手を育成するため、担い手育成講座を開催し、23名を琉球料理传承人として認証したほか、WEBサイトやガイドブックを活用して、広く伝統的な食文化の魅力の情報を発信した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果
										食文化に関する講義と琉球料理の調理実習からなる担い手育成講座を開催し、計画値を上回る23名の講座修了者を「琉球料理传承人」として認証した。また、学校給食関係者等を対象とした琉球料理传承人による出前講座を県内5ヶ所で実施するなど、沖縄の伝統的な食文化の保存・普及・継承に向けて順調に取組を推進した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 観光資源として位置づけるため、琉球料理を提供するお店の認証や情報発信について検討する。 琉球料理传承人による出前講座について、昨年度実施しなかった宿泊施設の調理師等を対象とした講座や北部地域での開催など、より効果的な普及に繋がるように講座の対象や開催場所等を検討する。 						<ul style="list-style-type: none"> 観光資源として位置づけるため、「琉球料理」と「泡盛」、「芸能」をテーマとしたストーリーが日本遺産に認定された。 琉球料理传承人による出前講座について、ホテル料理人等を対象とした講座や北部、宮古、八重山を含む県内5地域で開催し、より効果的な普及ができた。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・ 県民が伝統的な食文化の価値を再認識するとともに観光資源として活用するために、琉球料理に触れる機会の増や、伝統的な食文化の情報発信が必要である。

○外部環境の変化

・ 沖縄の伝統的な食文化を継承する人材の高齢化等やライフスタイルの変化などから、琉球料理を提供する老舗のお店が少なくなり、県民が琉球料理を食べる機会が少なくなっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・ 県民が伝統的な食文化の価値を再認識するため、学校現場と連携を図り、小学生やその保護者が琉球料理に触れる機会を増やす必要がある。
・ 観光資源として位置づけるため、琉球料理を提供するお店の認証や効果的なプロモーションについて検討する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・ 県民が伝統的な食文化の価値を再認識するため、学校現場と連携を図り、小学生やその保護者が琉球料理に触れる機会を増やす。
・ 観光資源として位置づけるため、琉球料理を提供するお店の認証や効果的なプロモーションについて検討する。

様式1(主な取組)

活動指標名	模造復元品の製作(累計)				R元年度			R元年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	7件	18件	36件	60件	58	100.0%	91,482	順調	戦災等により失われた8分野の工芸品(絵画、木彫、石彫、漆芸、染織、陶芸、金工、三線)の模造復元品を製作し、令和元年度は絵画1件、石彫1件、染織16件、陶芸5件、金工1件の計24件が完成した。また復元資料を紹介する展覧会及び製作者による報告会、ワークショップ、監修者による講演会を開催した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 平成27年度に作成した実施設計書を基に、平成28年度から絵画、木彫等8分野にわたる模造復元品の製作を開始し、令和元年度は染織や陶芸などの復元品24件が完成し、これまでに計画値58件を超える60件が完成し、製作が順調に進んでいる。また、復元資料の展覧会を開催し約4000人以上が観覧し、さらに報告会等に471人が参加した。
活動指標名					R元年度					
実績値	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
令和元年度の取組改善案						反映状況				
<ul style="list-style-type: none"> 琉球王国の崩壊や先の大戦で破壊された文化財の模造復元品の質の高い復元を行うため、監修者会議や製作者と綿密に連携しながら、試作の過程で見つかる、素材、技法などに関する新たな課題に対応しつつ、完成までの工程管理を行う。 本事業の周知並びに王国文化の理解、活用の促進のため、製作工程で得られた知見等を発表する報告会やシンポジウム、ワークショップ等、これまで完成した模造復元品を使った展覧会等を実施する。 						<ul style="list-style-type: none"> 模造復元製作のための監修者会議を8分野ごとに各2回実施し、成果として模造復元資料を24件完成させた。 本事業の周知並びに王国文化の理解のため過年度までの復元資料を紹介する展覧会「手わざ」展を開催(令和2年2月4日~3月15日)した。また製作工程で得られた知見等を発表する報告会3回、ワークショップ1回、シンポジウム1回、講演会1回を実施した他、染織や三線について論文で発表した。 				



様式1(主な取組)

3 取組の検証 (Check)

(1) 推進上の留意点 (内部要因、外部環境の変化)

○内部要因

・復元資料を展示する「手わざ」展では、復元資料を通して琉球王国の文化や製作工程を幅広く紹介するための発信方法を工夫する必要がある。

○外部環境の変化

・沖縄への観光客の増加や首里城火災等により、琉球王国時代の美術工芸品等の文化財やその復元に対する関心が高まっている。

(2) 改善余地の検証 (取組の効果の更なる向上の視点)

・一般の方から美術工芸品製作関係者まで幅広い興味に応えるため、製作した復元品及び事業で得た知見について効果的な発信方法を工夫する必要がある。

4 取組の改善案 (Action)

・琉球王国文化の理解の向上、事業成果の活用の促進のため、手わざによって復元した資料を紹介する展示会をはじめ、製作工程で得られた知見等を発表する報告会や講演会、ワークショップ等を県内各地で開催する。